

宮下 克彦 様

この度は亡き父五郎のために多大なるご芳志を賜り、誠にありがとうございます。
ございます。

平成23年の10月から介護施設生活をしていた父ですが、今年の8月くらいから急に体調が悪くなりました。はじめは腰がいたいということで近くの医者にかかりました。腰の骨が圧迫骨折という診断で、ベッドで休む時間が増えました。好きな晩酌も休みがちになり、食事もよく誤飲をするようにもなりました。専門病院で詳しく検査を受けたところ、肺にガンも見つかりました。なにぶん高齢のため、自然にまかせる事としました。今思うと、酒で栄養を補給していたとも考えます。

今年の9月で92歳となり、亡くなる10日ほど前に、家族がそろい誕生日会が出来ましたが、これが最後の親孝行となりました。9月29日の午前0:12に息を引き取りましたが、27日には妹・恭子が28日には妻・由美子が昼食の介助に行っていましたので、突然の知らせには私もやや驚きましたが、まるで寝ているような安らかな死に顔でした。本人もよく「長く生きすぎた」と言っていたのですが、大往生でした。

昨年二月に母恒子が亡くなりましたが、これで私も介護生活が終わりました。また私も今年の春に完全退職しましたので、これからゆっくりと父母の片づけをしていくつもりです。

宮下様にもお体を大切にされ、これからの人生を楽しまれるようお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

平成26年12月26日
矢島 郁夫

